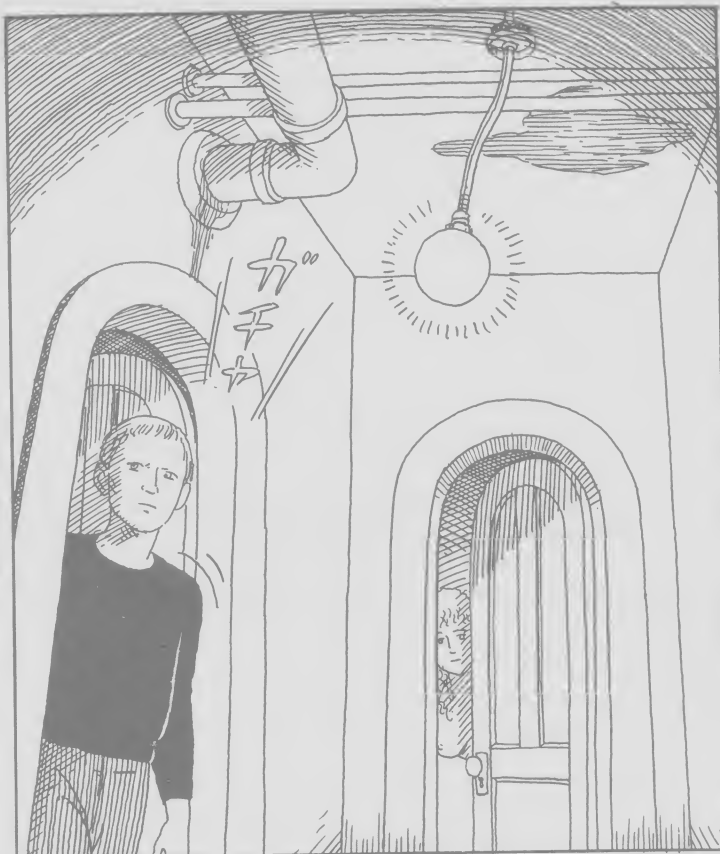




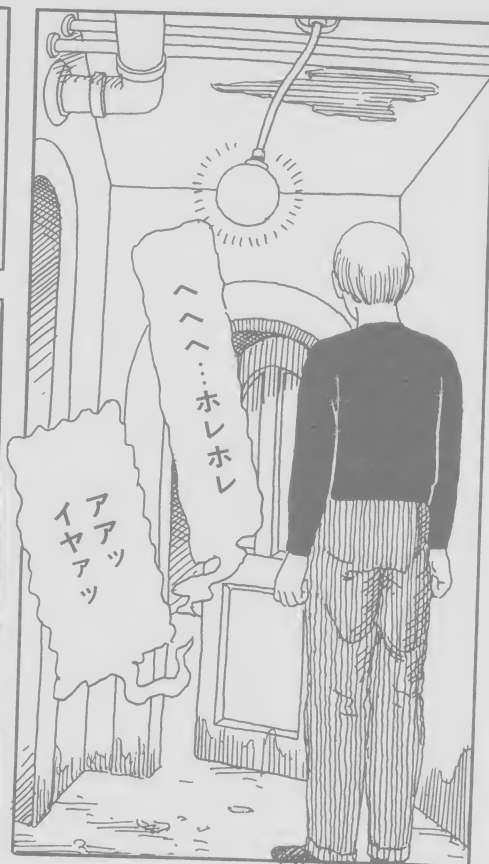
③Nyogtha＝底深き妄想の沼にひそむ存在

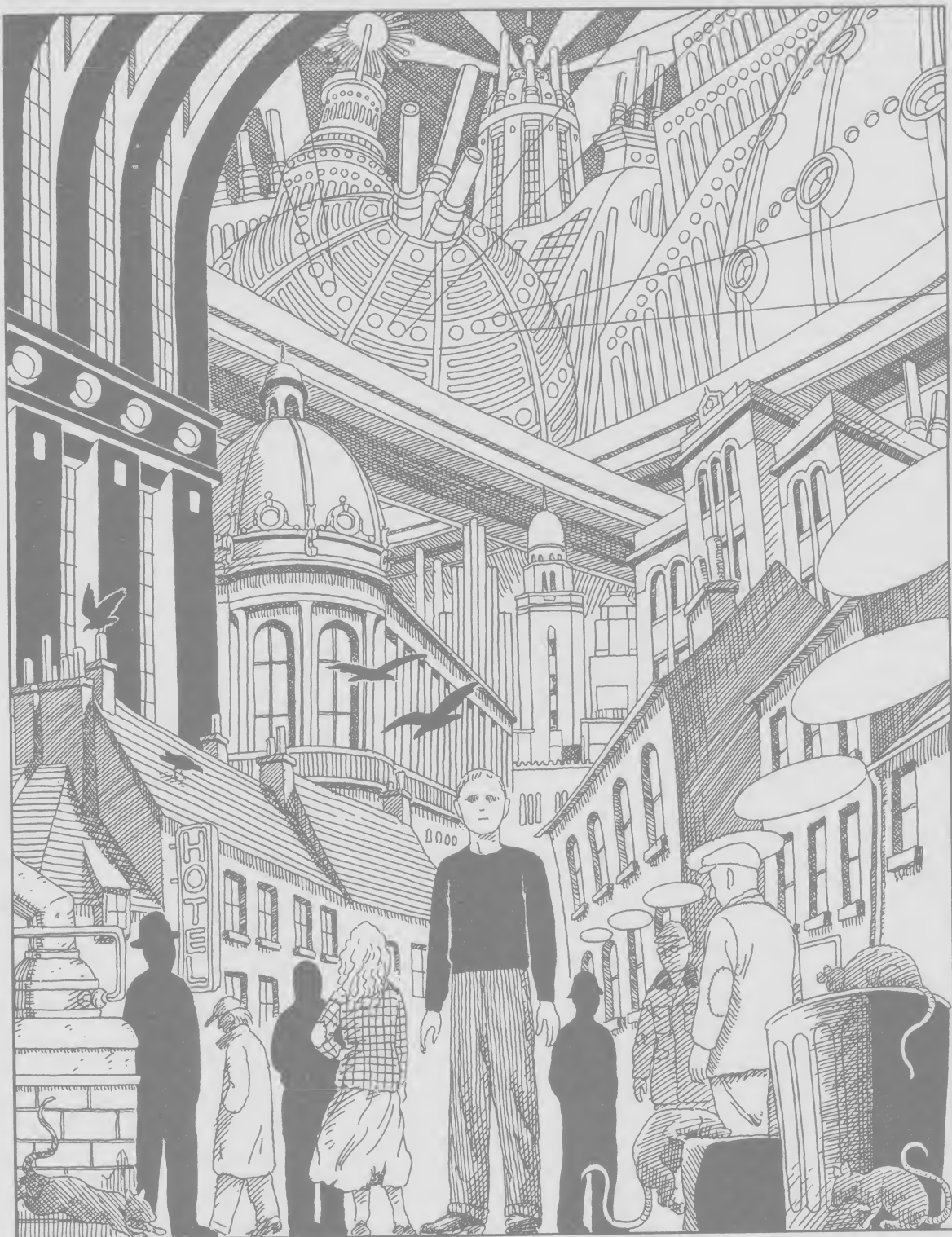


どうも頭がスッキリしない。ここ数日の記憶も不確かで
得体の知れぬ不安を感じる。独りで部屋にいることに耐
えられず私は夜の町に出ることにした。



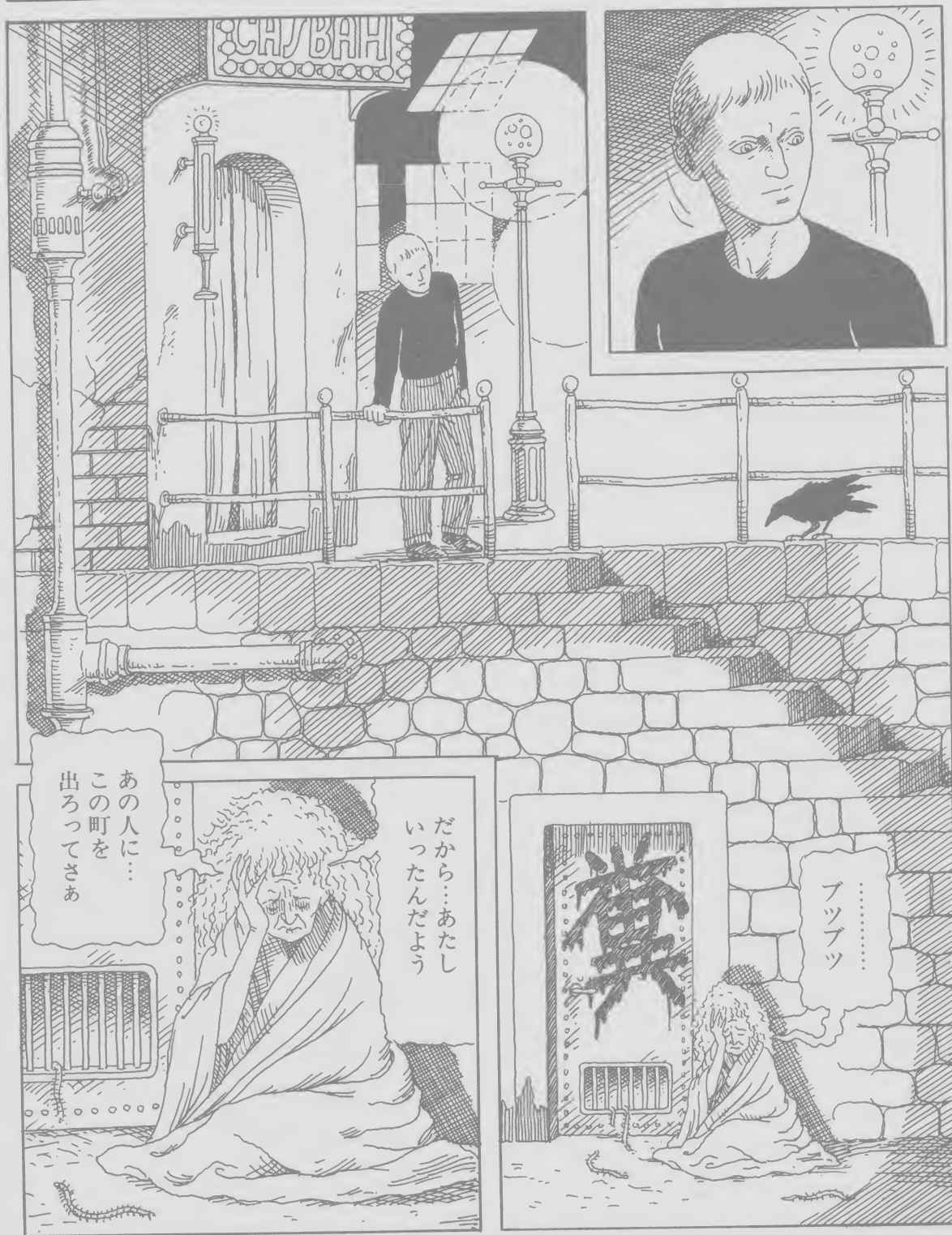
となりの部屋の住人は知恵おくれの娘だった。誰に教えられたのか客をとって暮らしている。





ある種の人々が憎しみをこめて『墓場』と呼ぶ都市の一角に、
皮肉にも『極楽横丁』と名付けられたこの町がある。

——落ちる所まで落ちた今の私にふさわしい…地の底
のような町だった。



こんな町に
いけば
ろくなことは
ないんだ…



婆さんブツブツ
何をいつてるんだ？

こんな所で
何を
してるんだい？



それにしても
あんなヒドイこと
になるなんて…

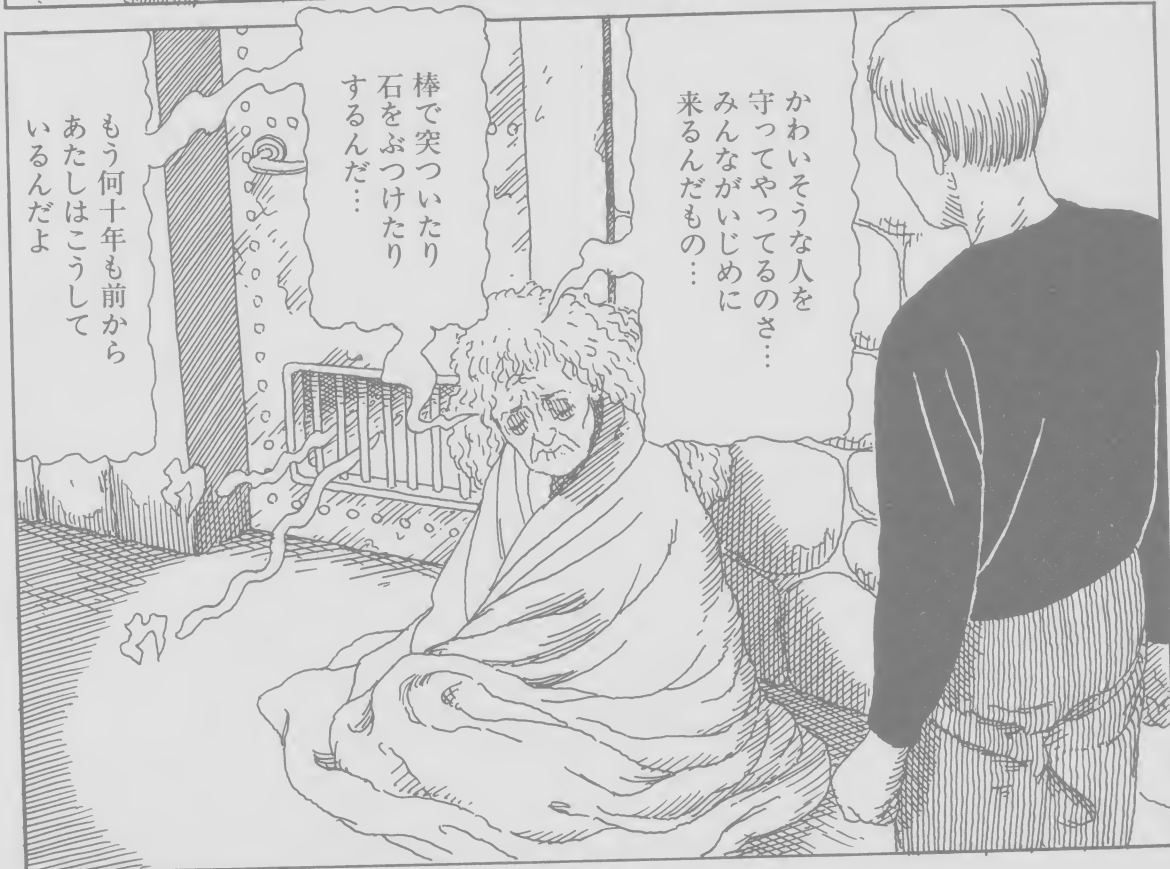
ひどい…
ひどすぎるよ…



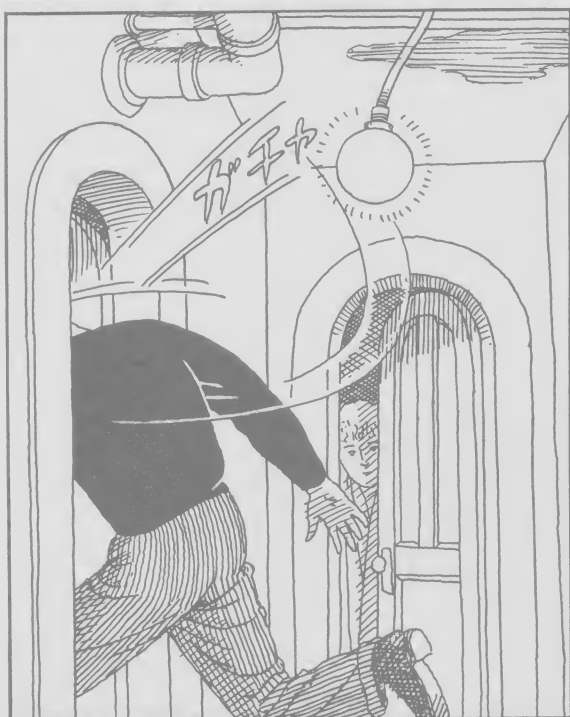
かわいそうな人を
守ってやってるのさ…
みんながいじめに
来るんだもの…

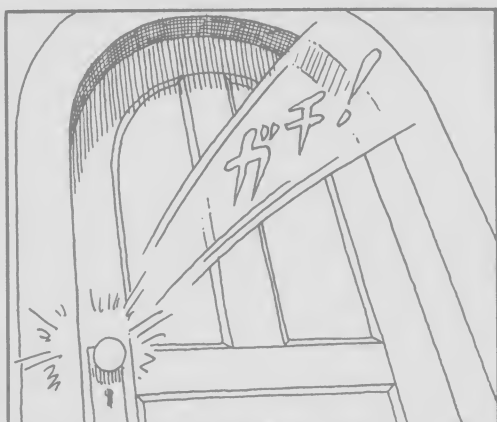
棒で突ついたり
石をぶつけたり
するんだ…

もう何十年も前から
あたしはこうして
いるんだよ

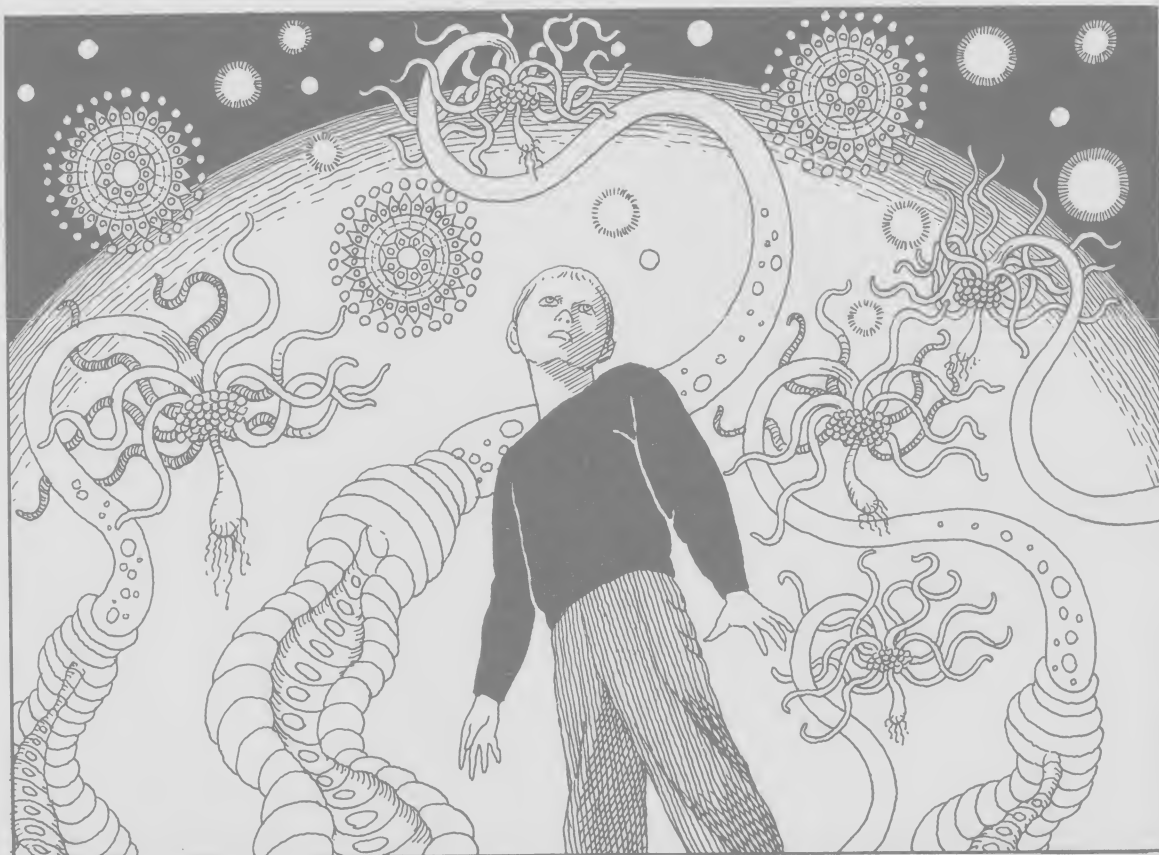


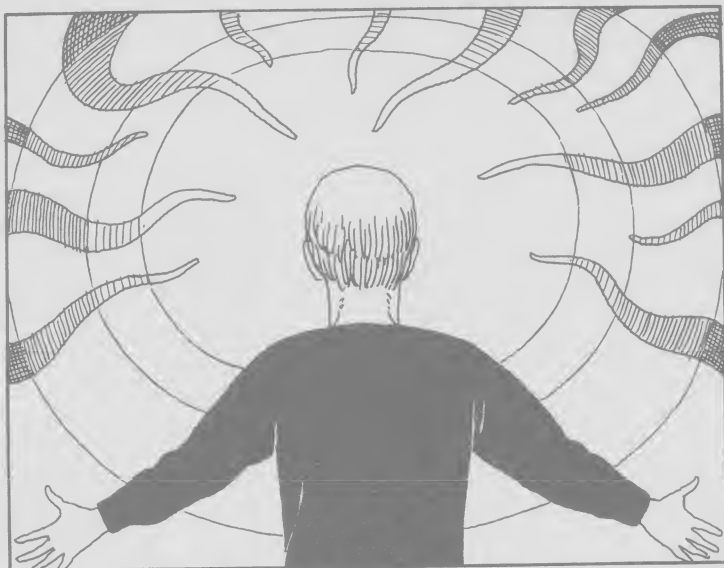




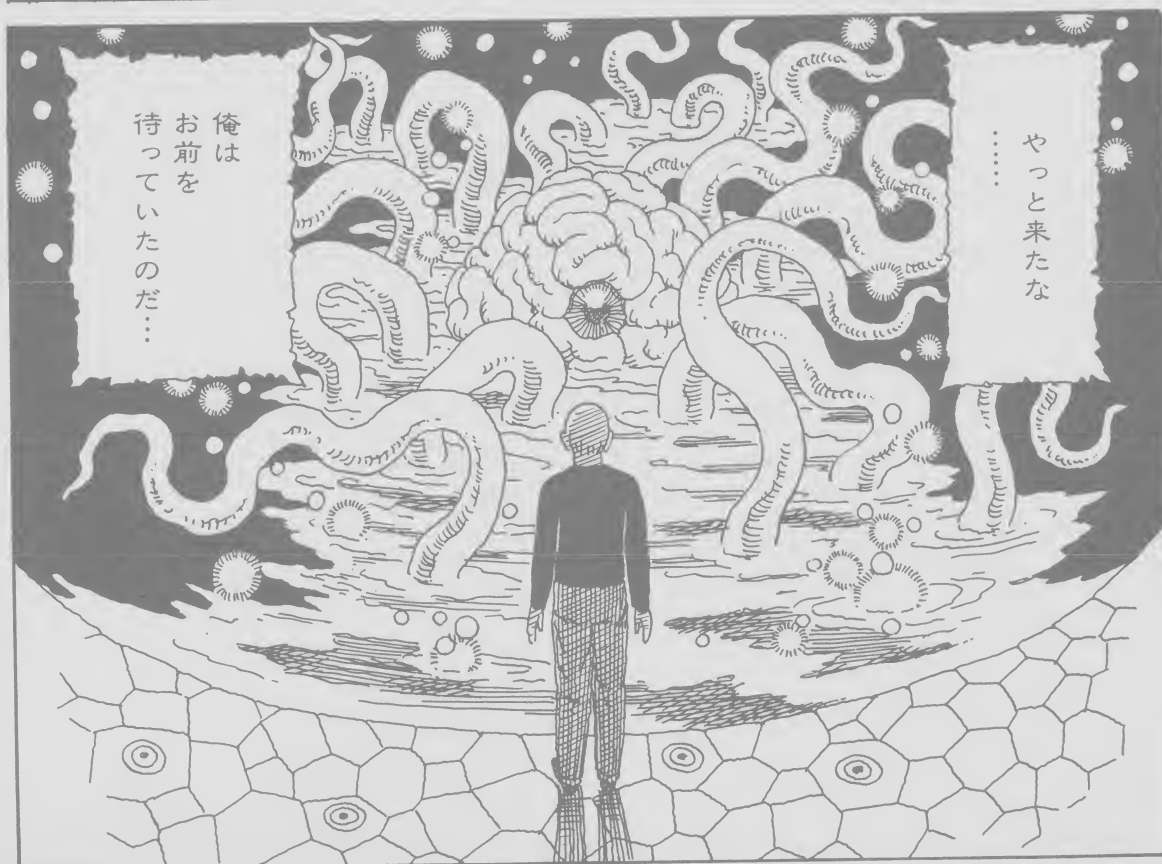


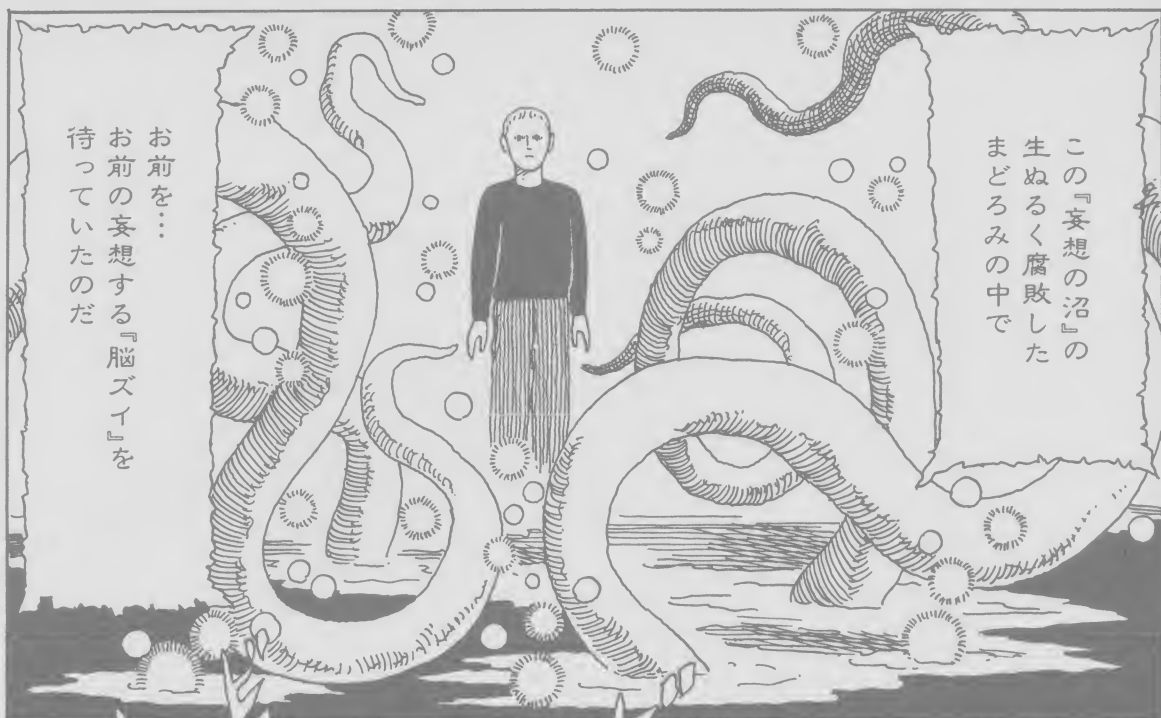
ああ／あの声…あの叫び…どこか、どこかで聞いたこと
がある…あの叫び、記憶のはるか彼方から、あの叫び…
あの声のこだまが聞こえる…





意識を失った私は悪夢の世界に迷い
こんでいた。誰か？何者かが私を招
いていた……





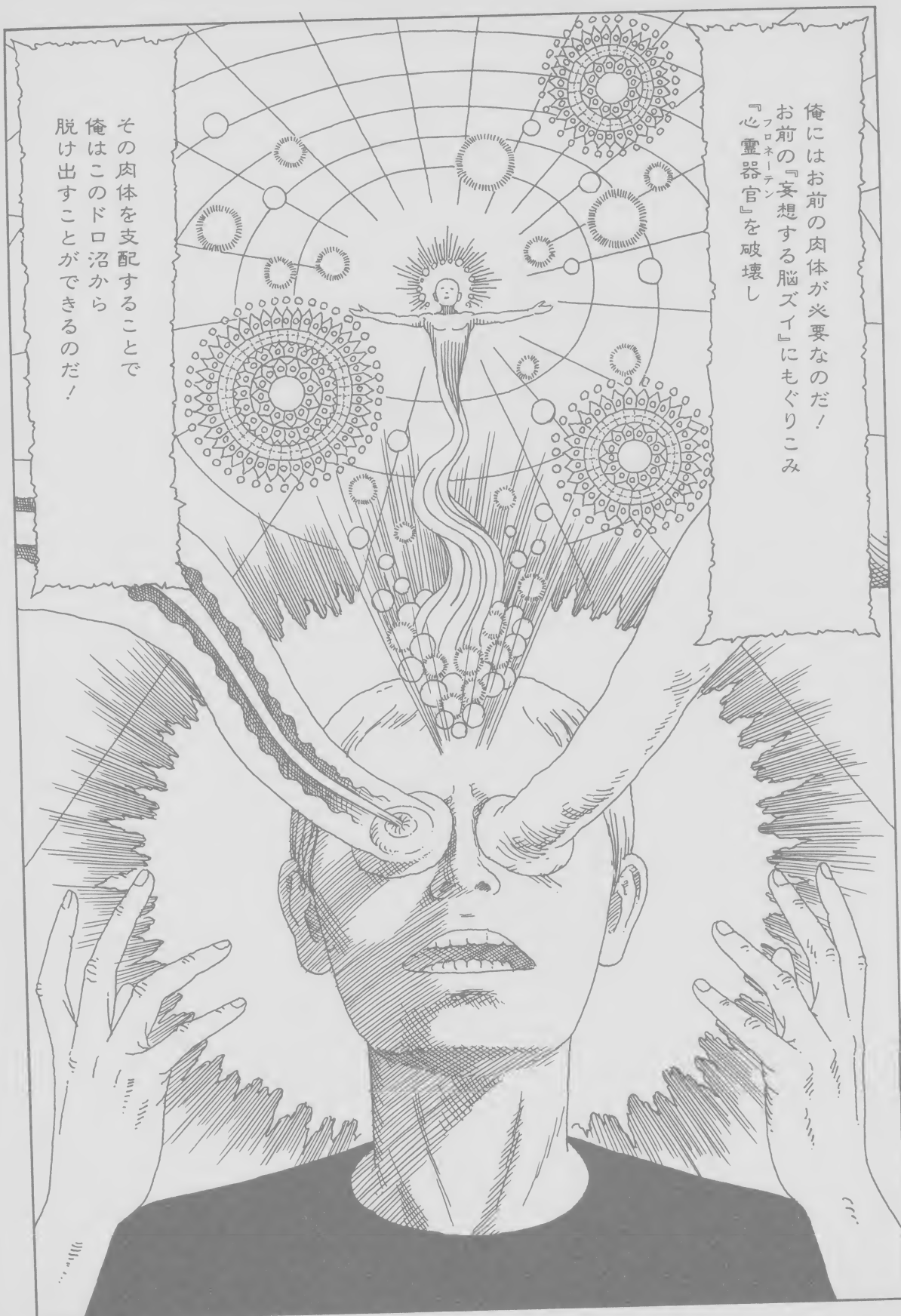
お前を…
お前の妄想する『脳ズイ』を
待っていたのだ

この『妄想の沼』の
生ぬるく腐敗した
まどろみの中で



俺にはお前の肉体が必要なのだ！
お前の『妄想する脳ズイ』にもぐりこみ
フロネーデン
『心霊器官』を破壊し

その肉体を支配することで
俺はこのドロ沼から
脱け出すことができるのだ！

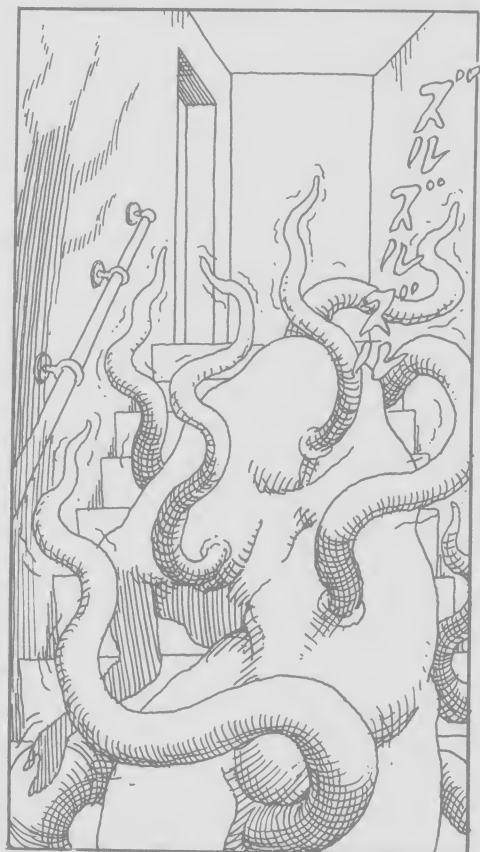


俺の名は『Nyogtha』！俺はお前になり
お前は『Nyogtha』になるのだ！

なんだ！
なんだこの肉体は！

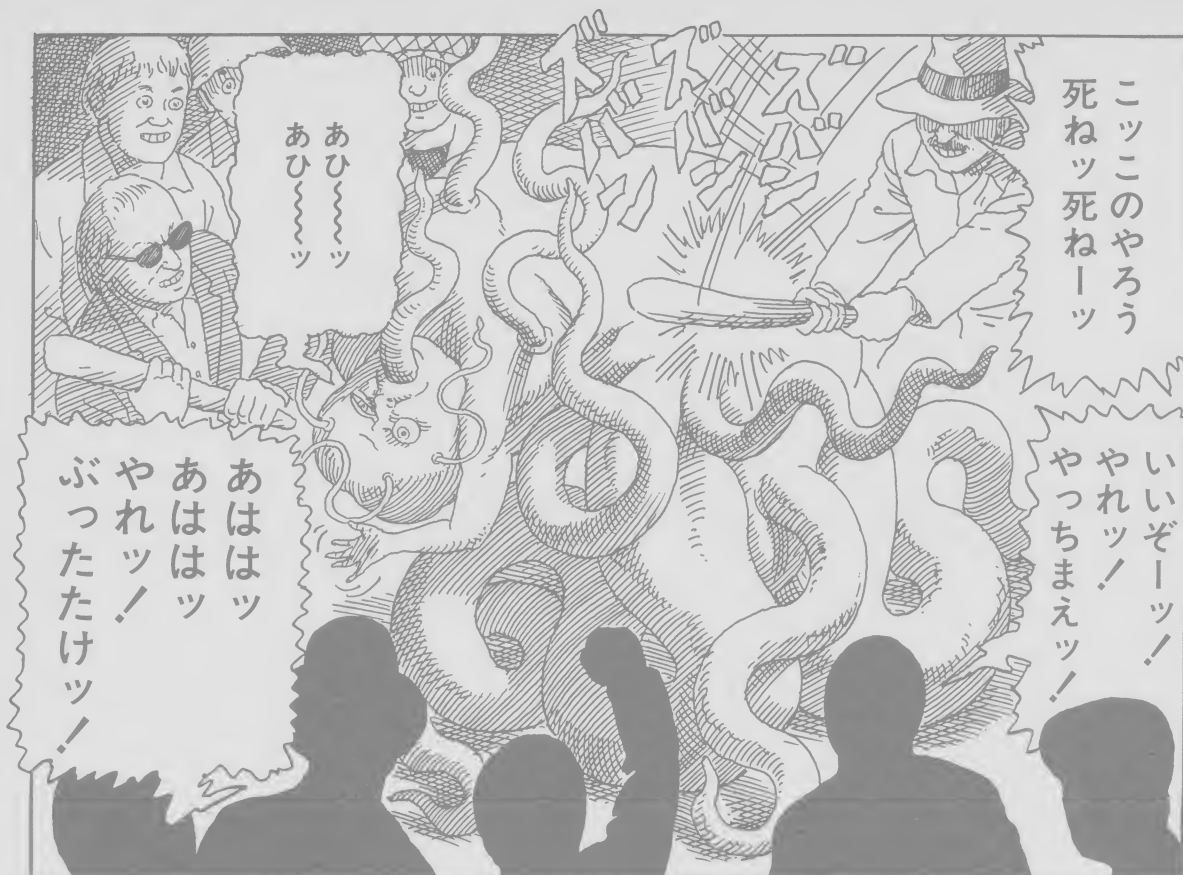
ぶぎまで脆弱な
できそこないめ！

こんなことに
耐えられないのか！











ア~~~~ッ
目が...目が...



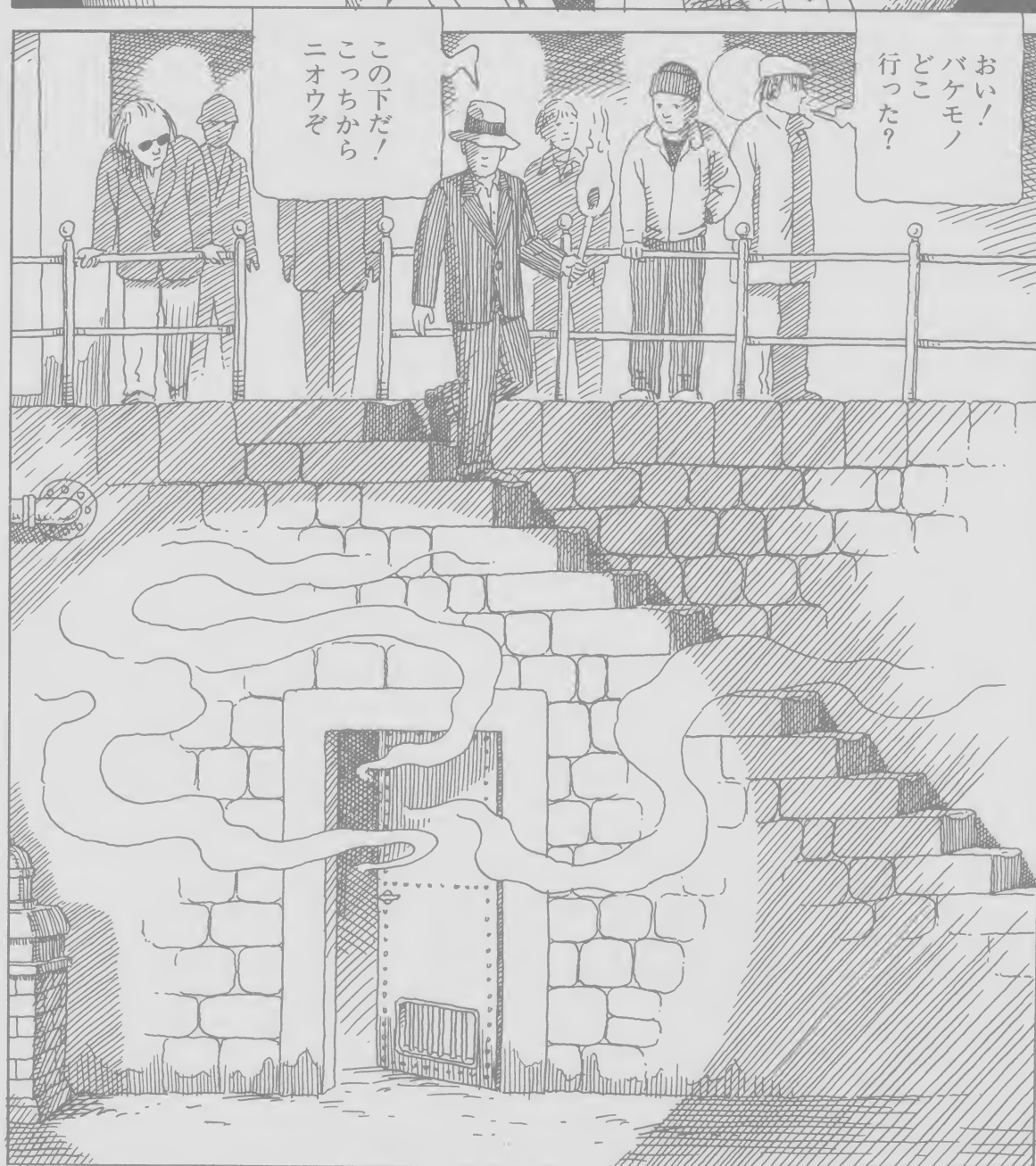
アアッ

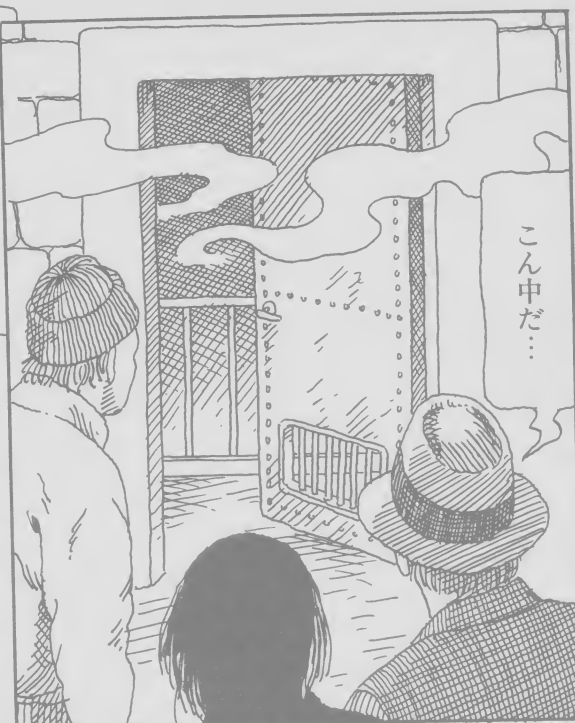


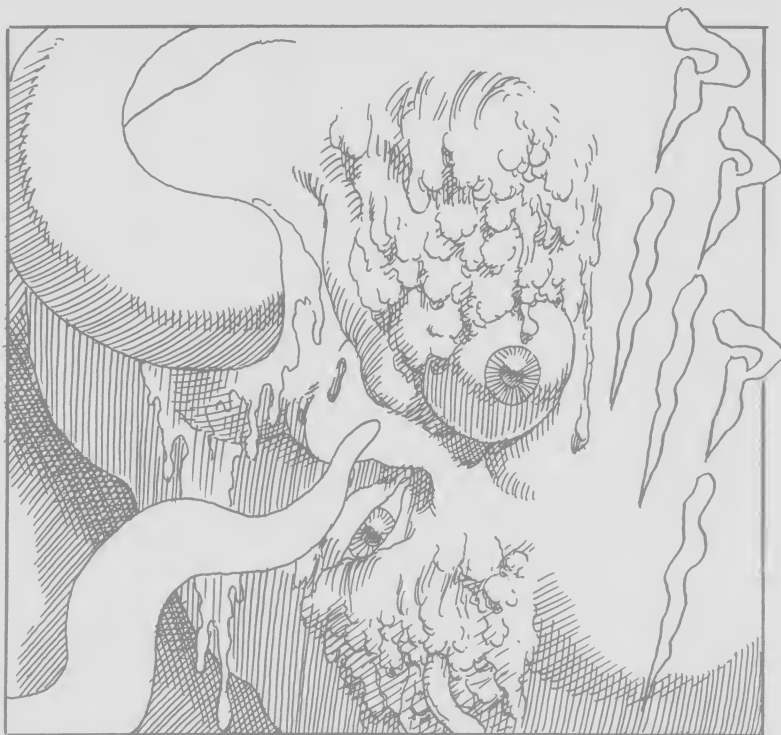
おい見ろよ!
あいつ、逃げるぞ!

けっこう逃げ足
早いぜ!

おもしれえや
つかまえて
なぶりものにしてやれッ







ひ、ひでエ!

腐ってる…
生きたまま腐ってる!

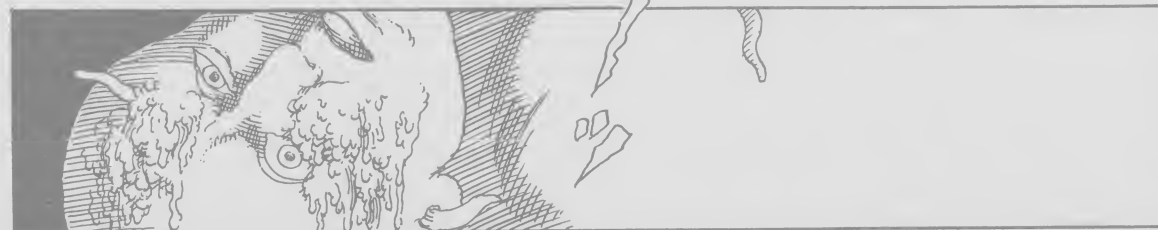
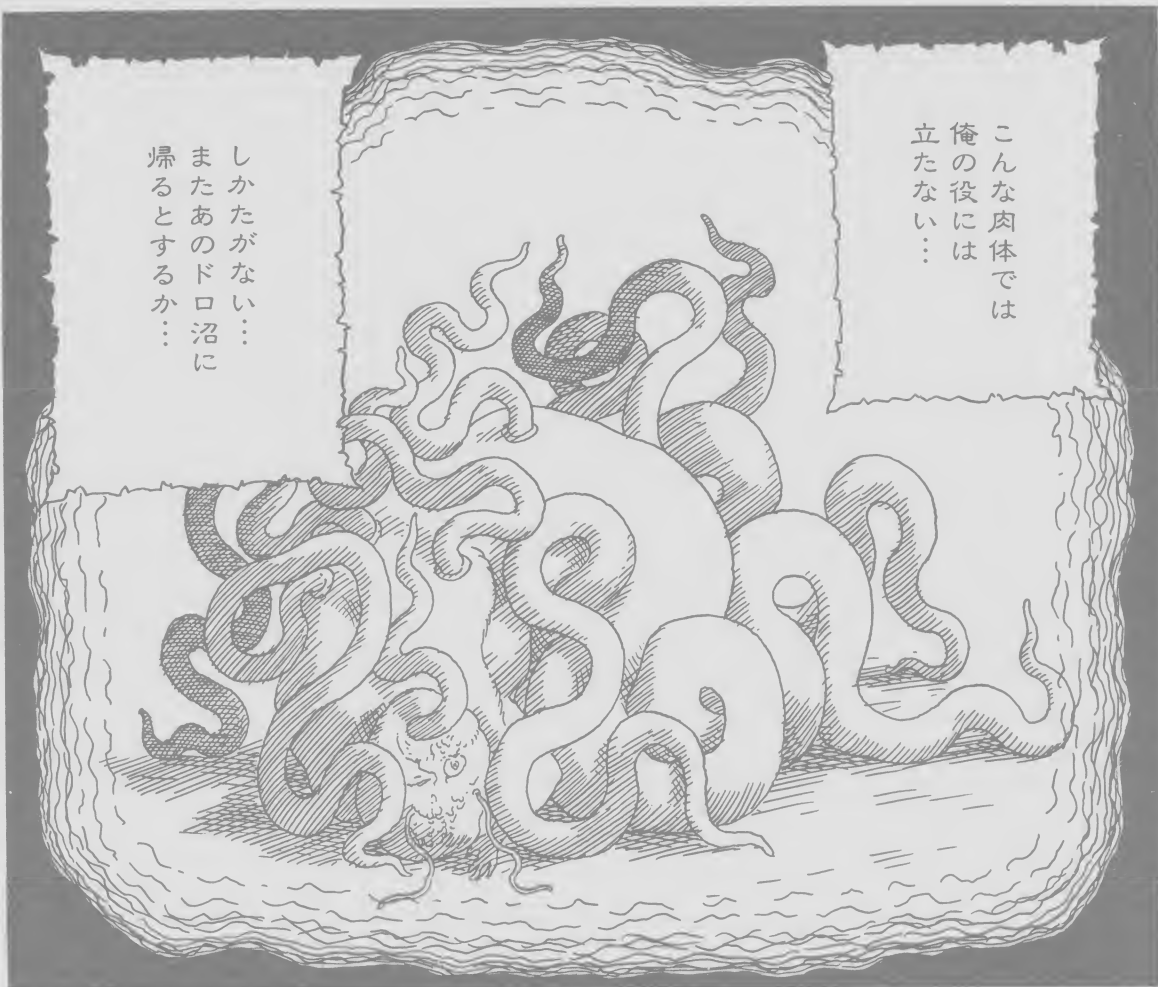


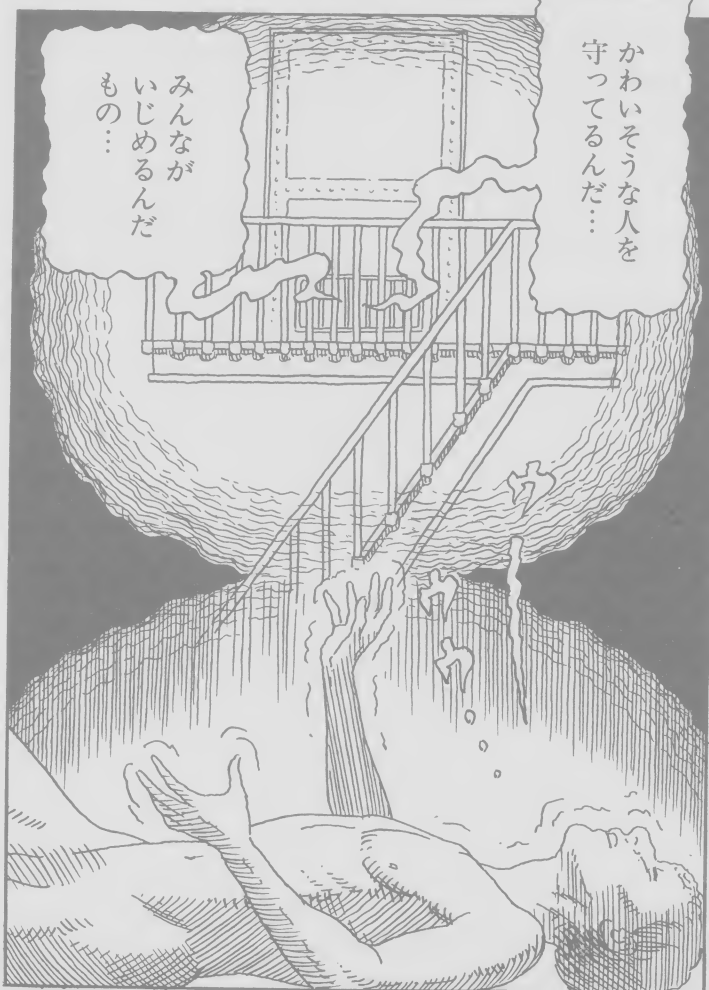
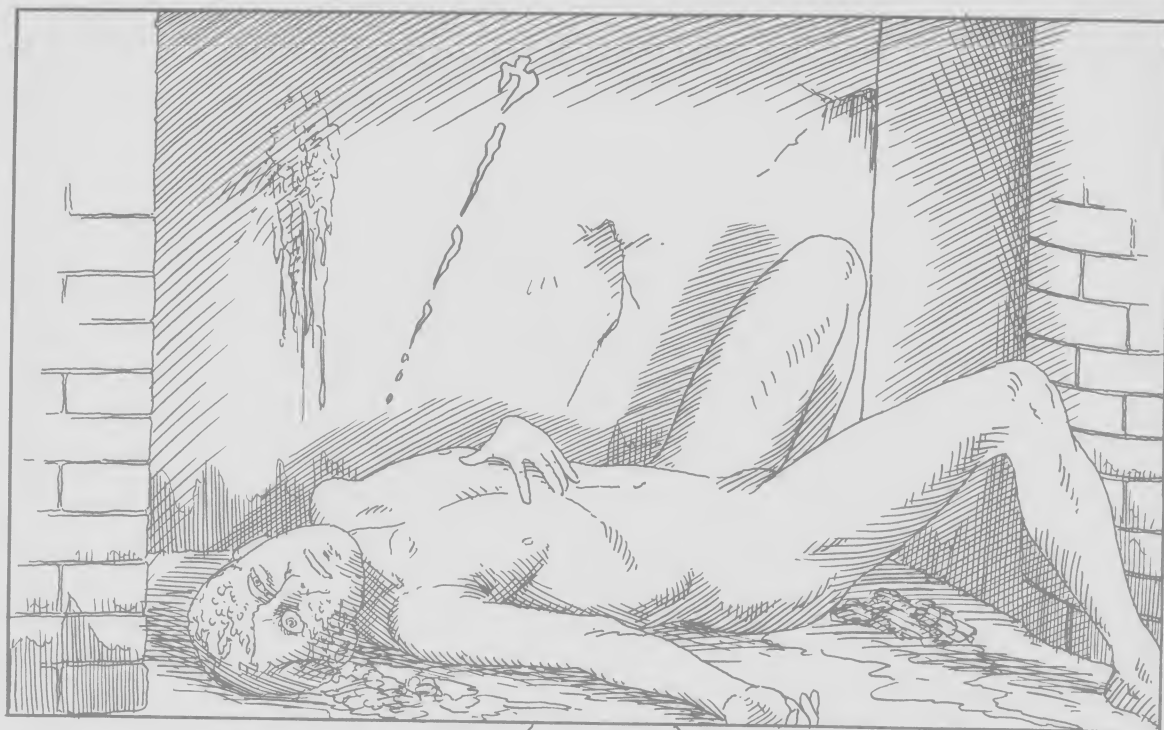
おい!出るんだ!
こんな所にいたら
病気になるぞ!

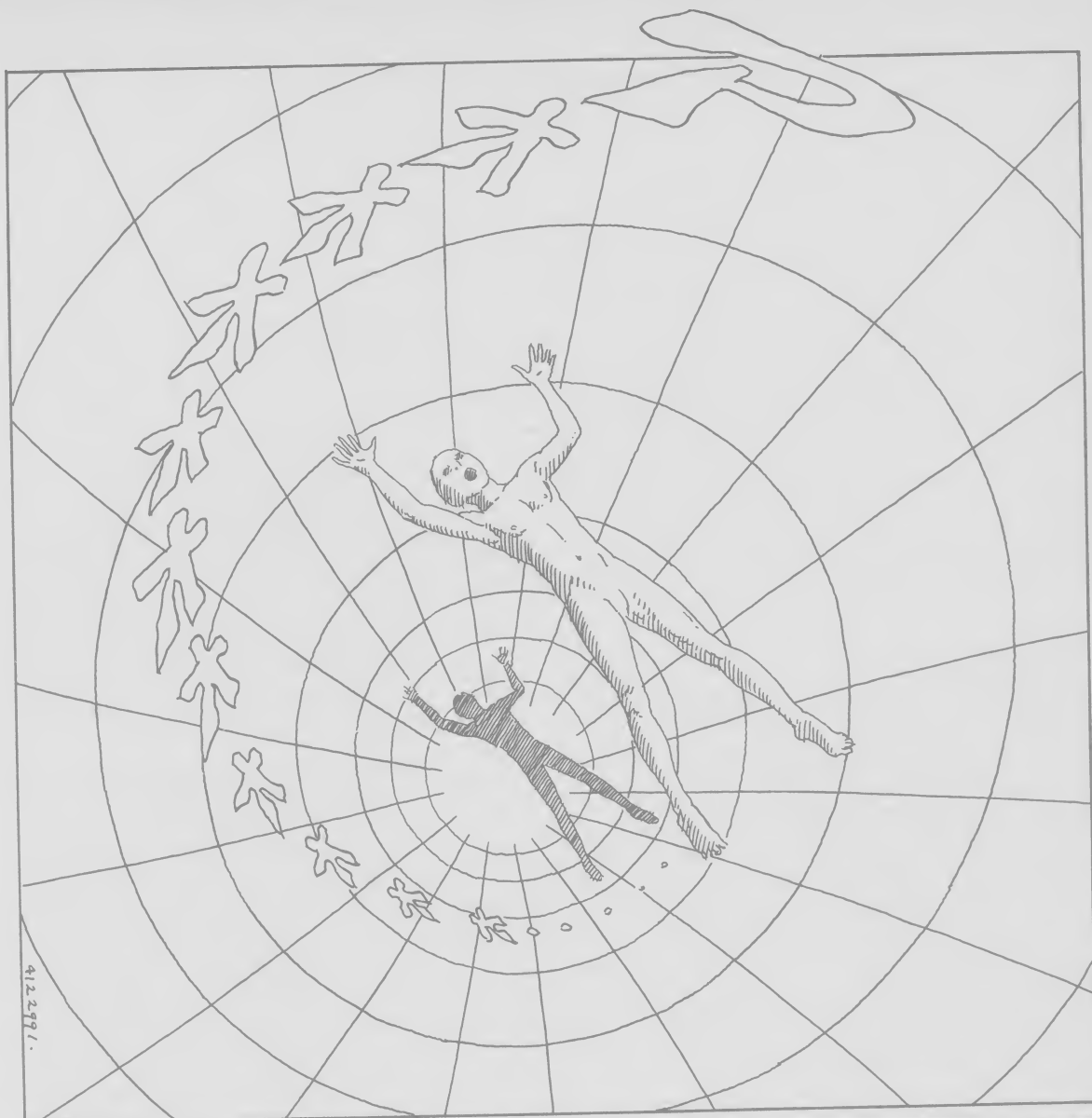


こんな肉体では
俺の役には
立たない…

しかたがない…
またあのドロ沼に
帰るとするか…







ああ…あの声…あの叫び…
 記憶のはるか彼方から聞こえる…
 あの声のこだま…

end.

『ガロ草創期の 名文たち』

I

[illegible]